

「解答・解答例等」

| | |
|---|---|
| 選抜区分 | 2026年度（選抜区分：帰国子女学生特別選抜） 法学部 両学科共通（科目名：小論文） |
| <p>問題1 標準的な解答例</p> <p>カジノの推進には肯定論と否定論がある。肯定論は、他人に危害を加えない限り、個人の自由を制約することはできないという、ミルの「危害原理」に基づく。対して否定論は、カジノ行為のような不道德な行為は当然に法的処罰の対象とする「法的モラリズム」、及び本人自身を保護するためにカジノ行為は法律で禁止されてしかるべきという「法的パターンリズム」に基づく。本人保護の問題は、ギャンブル依存症対策にも関連する。行動経済学によれば、ギャンブル依存症は、現在の楽しみを優先し計画を先延ばしにする「現在バイアスと先延ばし行動」と、失った金を深追いする「プロスペクト理論」によって説明はできる。しかしまだ治療法が見つかっていない。そのため、「法的パターンリズム」は、やはり本人保護のためにカジノは推進されるべきではないと主張する。他方、個人の選択を尊重し利益も保護するリバタリアン・パターンリズムの見地から、カジノ利用は個人の選択とし、かつ、ギャンブル依存症を避けるという「第三の道」を探求していく可能性もある。(444字)</p> <p>問題2 出題の意図</p> <p>別紙を参照。</p> | |